

## 第7回 函館市自治基本条例策定検討委員会要旨

日 時 平成19年12月4日(火) 18:30~20:15

場 所 市役所本庁舎 8階大会議室

### 1 開 会

### 2 ワークショップについて

(横山委員長)

前回ワークショップの実施方法について議論した。今日は、ワークショップの内容について固めた  
いと思う。検討委員会からの意見等を踏まえ事務局からまとめた資料に基づき、説明をいただき議論  
していきたいと思う。

(事務局)

資料説明(11月27日開催の検討委員会の意見、ワークショップ(案))

(横山委員長)

ワークショップの開催回数や検討委員の関わりなどを決めていかなければいけないが、最初に前回、  
各委員から意見を出していただいたことを取り込んでいるかどうか確認し、意見をお聞かせいただき  
たい。

(意見なし)

(横山委員長)

開催時期等スケジュールにあるとおり、かなり回数は多くなる。Step1~3まであり、市民意  
見を委員会の議論の参考とするためのワークショップを4回開催、さらに、その上で広く市民への条  
例の周知と意見集約を図るワークショップを4回開催、高校生もしくは大学生・市職員ワークショッ  
プを各1回開催と10回程度予定しているが、この辺についていかがか。検討委員会の委員がどの程  
度関わっていけるのか議論していただきたい。

(若杉委員)

開催時間はどのように考えているか。

(横山委員長)

資料のワークショップの進め方に記載のとおり約2時間程度となっている。

(若杉委員)

日中か夜間の開催のどちらか。

(横山委員長)

平日の夜を予定している。高校生についてはまた別になると考えている。

(板本委員)

開催時間は何時からか。

(横山委員長)

6時からか7時からか、どちらがいいかわからないが、丸藤委員はワークショップを良くやられて  
いるが大体何時から行っているか。平日の夜が多いか。

(丸藤委員)

平日の夜か、土曜日が多い。

(横山委員長)

平日の夜だと何時くらいが多くて、市民は何時くらいが都合が良いか。

(丸藤委員)

集まる対象によっても違うし、比較的、経験では若い人は7時30分、主婦層を入れるのであれば、少し早めとか、完全に主婦層をターゲットにすると平日の昼間の10時、1時など。

(事務局)

Step1は継続して、同じ人に出ていただきたいと考えている。

(横山委員長)

Step1はできるだけ毎回出てきて欲しい。もちろん1回ごとに完結するので、1回だけの参加でも良いが、一般的には6時30分ぐらいだと思うがどうか。

(板本委員)

帯広ではどうだったのか。

(横山委員長)

6時30分から行った。

(板本委員)

参加者はどの様な方か。

(横山委員長)

サラリーマンもいるし、市職員もいるし、主婦の方も来られたし、高齢の方も来た。最大公約数では6時30分とか7時になると思う。6時から実施したがサラリーマンは来づらいかも知れない。

(敦賀委員)

6時30分で良いと思う。時間を変更しても同じことだと思う。

(横山委員長)

Step1については、市の広報など早い時期に出したいと考えているが、4回実施するとすればまとめて出すので、そうした場合に毎回何時からというのは出したいと考えている。Step2,3は団体次第なので、これはいくらかでも団体の要請によって変えられる。

(若杉委員)

会場は市役所の会議室か。

(横山委員長)

そう考えている。市役所でよろしいか。

(市居委員)

やはり市役所は集まりやすい。車のない方も2時間で終了し、8時30分であれば公共交通機関も動いている。

(横山委員長)

時間は6時30分として、問題は開催時期と回数だが、検討委員会の委員にはできるだけ参加して欲しい。Step1については、私が事務局と事前に打ち合わせをして示しているが、導入の部分としてテーマは「函館市の好きなおところ・嫌いなおところ」、「未来の函館に残したいもの」、「函館の満足度は？」など、理念や前文に関する意見を聞きたい。あと3回は、「市民協働」、「市の責務」、「情報公開」などのテーマを予定したいと思っている。意見があれば変えたいと思うが。全部で4回を集中的

に実施し、1月に2回、2月に2回途中に検討委員会を1回開催し、ワークショップを全て終えてから本格議論をしたいと考えた。いかがか。

(若杉委員)

事務局で決めた案で、我々もスケジュール持っているから参加できるときは出るし、参加できないときは欠席するし、と考えている。

(横山委員長)

うっかりしていたが、1回は旧町村で実施したいと考えている。旧町村はStep 2に入っているが、やはり対等という考え方に立つと、Step 1でやらなければと私は思うがいかがか。

(川田委員)

Step 1で1回、Step 2で1回と2回行くのか。

(横山委員長)

Step 2で何回行っても構わないと思う。Step 1では、旧4町村のどこかで1回は実施した方が良く考えている。

(敦賀委員)

旧4町村は、距離的な問題があるので1か所の開催ではなかなか難しいと思う。戸井、恵山で1回、楳法華、南茅部で1回かなと思う。

(横山委員長)

事務局はどう考えるか。

(事務局)

4支所管内で開催するとすれば、どこで実施するのかということを検討する必要がある。

(敦賀委員)

2月の日中の開催は大丈夫だと思う。

(横山委員長)

産業構造的には日中だと思う。高齢の方々も出てきやすい。

(事務局)

Step 2の中で、4支所と相談し早い時期に開催したいと考えている。

(丸藤委員)

江差町で開催するコミュニティビジネスの講座に講師として行くが、2時スタートの5時終了で、どう集めたのかわからないが、普通に働いている人や若い人など30人参加するが、相当苦勞して集めたものと思う。

(事務局)

4支所のテーマは、個別の項目よりは、「函館の未来は？」とすれば、Step 1でも実施は可能と思う。その辺は4支所とも相談したい。

(横山委員長)

合併して同じ自治体になったので、4支所だけStep 2というのはどうかと思う。

(市居委員)

Step 2で進めた方が、やりやすいと思う。

(横山委員長)

出前的な団体へのワークショップと同じになるがそれでも問題ないか。

(市居委員)

地域を団体とおさえてしまえば、そういう位置づけの方が進めやすいと思う。

(横山委員長)

旧4町村もそれで大丈夫か。

(事務局)

事務局で調整したいと思う。

(横山委員長)

合併した後の綱引きがすごいところがいっぱいあって、そういうところにも顔を出しているものだから、そういった点は敏感になるが大丈夫か。

(敦賀委員)

実施することが必要で、人口の比率のこともある。

(若杉委員)

S t e p 1に組み入れてしまうと継続性を持たせなければならないので、出席を義務づけてしまうことになり、参加しづらいと思う。

(横山委員長)

問題なければ良いが。

(川田委員)

4地域の方もS t e p 1への出席を拒むものではないから問題ないと思う。

(横山委員長)

了解した。4支所の方はS t e p 2で考えたいと思う。4回のワークショップの開催とすると、2月6日の検討委員会ではワークショップで出た意見について少し意見交換し、2月19日の検討委員会では、本格的な議論に入りたいと考えている。このような設定でいかがか。4回では足りないとか、今回の案では情報共有などのテーマがあるが、このテーマで良いかどうか。

(若杉委員)

回数が多くなると意見集約が大変になると思う。

(横山委員長)

集約は事務局でしっかりやっていただく。当然、検討委員会の議論を行うときワークショップでどういう意見が出ているのか、しっかり抑え参考とし条例案を作っていくので、例えば情報共有や市民の責務だけで、後はワークショップから意見を聞かなくて良いと言うのであれば、それはそれで良いが。

(川田委員)

前回、項目を出して事務局がそれを斟酌して、このくらいということでワークショップの案を作った。私たちはワークショップをいつもやっているわけではないので、良くわかってないところもある。そういう経緯も踏まえて案を作ったのでまず、この案でやってみてはと思う。

(横山委員長)

いざとなったらもう1回ぐらいは増やすことはできる。2月6日など。

(大江委員)

出てきたメンバーの意欲を見てみないと、言い足りなくて発言したいという方がいれば、人数にもよると思う。言い足りない人がいれば回数も増やすべきかも知れない。メンバーを見ないと、多い少ないは言えないと思う。

(板本委員)

Step 1を実施するときには当然、条例に盛り込む内容はこういうことを考えていると説明するとすれば、協働や市の役割など、参加した人からテーマに取り上げたいという声が出ないとも限らないと思う。Step 1をもう1回増やすことを考えるかどうか。

(横山委員長)

1月の広報に日程を載せなければならないので、4回なら4回ということで決まってしまうと思う。テーマについてもここで決めたい。

(板本委員)

テーマについて、市民からこういうものを作って欲しいと出てこないか。

(横山委員長)

出てくればその時に考えれば良いと思うので、大丈夫だと思う。

(丸藤委員)

それは1回目をやってみなければわからないと思う。

(川田委員)

テーマはこういうものを考えているということで、たくさん出してもしょうがないと思う。このくらいで良いと思う。

(横山委員長)

私が今思っていることで、これをテーマに入れても良いか迷っているものがある。どこの条例案でも議論しているテーマだが、例えば教育や福祉があっても良いのかなと思った。函館の教育と福祉を考えるとというテーマでも良いが、入れなくても大丈夫か。

(板本委員)

面白いテーマだとは思う。

(若杉委員)

テーマを見て参加する方がいればいいが。

(横山委員長)

函館オリジナルをどこかに入れなければいけないと思うが、教育や福祉でも良いし、もう少し広い経済問題でも良いし。

(若杉委員)

興味を持っていただけるかどうか。教育、福祉で実施するとすればそういう関係者が来るだろうし、函館が有している特異性を考えようとするれば、そちらの関係者が来るだろうし、テーマによって集客も違ってくると思う。

(横山委員長)

福祉、教育の団体はStep 2の方でと考えることもできなくはないが、やはり一度総合的に議論しておく必要があると思う。経済交流や青函交流もそうだろうし、そういうテーマもあると思うし、どうだろうか。導入部分で想定している7つのテーマはすべて実施するのではなく、その中から一つ簡単なテーマということなので。

(川田委員)

2～4回はそれぞれ、大体このテーマで実施しようということか。

(横山委員長)

アバウトでも良いが、その中でも市民協働でやる、あるいは市の責務でやる、情報公開でやること

になる。条例の項目が決まらなくても、恐らくこの3つが検討委員会でも議論になると思ったことから入れたが、他になくて良いかどうか。良ければこの4回で良いが、函館の地域特性や経済、福祉、教育を入れるのであれば、もう1回やらなければならないと思うがどうするか。

(若杉委員)

1回目で50人程度参加者を募って、その方は2回目以降もお願いして継続性を持たせることになる。

(横山委員長)

継続性を持たせるが、興味のあるテーマだけ出てくる方もいるし、それから都合が付かなくて出られない方もいるし、今回だけは出られるという方もいるから、継続して参加することが望ましいが、1回ずつのテーマを敢えて設定したのは、1回で完結するという性格を持たせた。1回だけ参加しても付いていけないとか、そういうことにはなっていないやり方にはなる。

(横山委員長)

委員長の経験から継続して、参加する方は多かったのか。

(横山委員長)

継続参加は半分くらいで、なかなか忙しい方は日程的に毎回参加するのは難しい。何とか都合を付けて出てこられる方もいる。高齢の方は毎回ほぼ出てこられた。

(藤沢委員)

教育と福祉は外せないのかなと思った。入れると回数が増えて日程は厳しいのかなということも考えた。

(横山委員長)

もし、実施するとすれば、2月6日をワークショップに当てることになる。いずれにしても今日中に決めて、広報に載せたい。

(事務局)

1月の広報に載せ、応募期間が短いということがあり、他の広報媒体を活用することも考えなければいけない状況にある。

(若杉委員)

回数のほかにテーマも出すことになるのか。

(横山委員長)

基本的には出したい。5回分の日時、場所、テーマ、応募資格等は載せたい。

(市居委員)

教育や福祉をテーマにすると要望事項ばかりにならないか。

(横山委員長)

そこはまさにファシリテーターやテーブルコーディネーターの役割だと思う。

(佐々木委員)

ワークショップが4回から5回になっても構わないが、基本的にワークショップを開くことで私たちが、そこから生むものは何なのか先ほどから考えていたが、市民協働、市の責務、情報公開の3つは大きなテーマで、私が例えば応募するかどうかをこの3つのテーマを見て考えたときに、このテーマを見たら尻込みしてしまう。

(横山委員長)

当然、市民協働をテーマにするのではなくて、市民が活躍できる場や、市民参加の考え方などと

いったテーマになる。

(佐々木委員)

分かりやすいニュアンスのテーマにはなると思うが、教育と福祉の事については、検討委員会の最初に横山委員長のレクチャーのなかで、あった方が良くということだったので、教育と福祉は外せないテーマという気持ちはあり、今回この中に入っていなかったのも、横山委員長からもやはり教育と福祉という言葉が出たことから、それも入れて開催した方が良くと考えている。4回が5回になることで各委員の負担が大きいのであれば、この3つに絞って実施していくこともしょうがない気がする。教育と福祉について、先ほど要望や苦情が出るという話だが、前向きに函館が良くなっていくために皆で考えようということで集まっていたのであれば、前向きな意見も出ると希望を持ちながら、私も聞いてみたいと思う。

(横山委員長)

教育と福祉では、子どもの問題のこと、安心安全なども当然、想定している。

(大久保委員)

教育と福祉は聞きたいが、間隔を開けて開催できるのであれば、増えても良いが、連続で開催してとなると日程の組み方を考えなければと思うが、ここしかないというのであれば、しょうがないと思う。

(横山委員長)

ワークショップと検討委員会の開催が、連続するのは私の日程のこともあって、何度も来るということも難しいことから2月については、こういう日程になった。3月以降の検討委員会の開催だけになった時には、連続しないように考えたいと思う。

(川田委員)

どこか、市民協働などと一緒にしても、出てくる意見はそうは変わらないと思う。

(横山委員長)

経験から言うとそれは厳しいと思う。

(事務局)

1月、2月でなくても、進行状況に応じて開催することもできる。

(横山委員長)

できれば集中して、検討委員会を外してでも1月、2月はワークショップを開催した方が良く考えている。

(丸藤委員)

教育と福祉は入れられるなら入れた方が良くと思う。

(板本委員)

少々大変でも、入れた方が良くと思う。

(大江委員)

入れることは良く思うが、バランスの問題からも言って、財政の問題、総合計画等々、初回から我々は説明を受けており、ひょっとしたらもっと重要なことかも知れない。井戸端会議的には教育と福祉は入りやすく良いが、本当に自治基本条例にとって、王道を行くようなテーマは実は入りづらい財政の問題であったり、総合計画の問題であったり、情報公開の問題であったりするので、教育と福祉は重要だと思うが、もっと重要で入りづらい、話しづらいが自治基本条例にとって具体的で重要な各論のテーマはあると思う。結論から言うとどのコマに落とすかは難しく、ちょっと悩ましいところ

ろではある。

(横山委員長)

自治基本条例を作るにあたって、恐らく行政運営という項目は入ってくると思うが、そのなかで総合計画や出資団体などそういった諸々の項目が条例に盛り込まれると思うが、その時に検討委員会としては、事務局からの説明をしっかり受けながら、議論をしていくことは必要と考えている。ただ、ワークショップということになると、割とラフに議論をしていただけるようなものと、しかも条例にとって重要になってくるものと考えていたものなので、行財政運営も大事だが、恐らくワークショップで出てこられる方で議論するには少し難しいかなということもあるので、その部分は外して、もし入れるとすれば、安心安全、子ども、教育と福祉という領域になるのかなと思った。

(長尾委員)

教育と福祉を入れるのも分かりやすくして良いが、入れると大江委員が言ったようにいろんなことがわき出てくることも考えられ、はっきりと答えられない。

(横山委員長)

意見が分かれているがどうするか。

(敦賀委員)

行政運営や財政問題は、ワークショップ向きではないと思う。安全安心のまちづくりに関する条例を12月議会で制定する動きがあるが、そういうものの方が市民の方は取り組みやすい。行財政運営はそうはいかないと思う。

(横山委員長)

どちらかと言うと入れた方が良いということか。

(敦賀委員)

入れた方が良い。

(横山委員長)

かなり意見があるので入れて良いか。日程は、2月6日の検討委員会をワークショップに切り替えることにしたい。Step 1は2月18日で終わらせ、その後、本格議論に入り、その間にStep 2, 3について、実施していただき、その都度報告をいただき参考にしていく形にしたいと思う。

(板本委員)

参加人数はどのくらいを想定しているのか。

(事務局)

多くて50人程度を考えている。

(板本委員)

実際応募して、予定している数が集まらなかったらどうするのか。何か方法を考えているのか。

(事務局)

1月の広報も含め、なかなか周知期間も取れないことから、ワークショップに出ていただける方を各委員の所属団体にもお願いし、参加者を確保したいと考えている。公募だけで50人集めるのは難しいと考えている。

(川田委員)

募集期間はどの程度を考えているのか。

(事務局)

1月に広報し、2月にも引き続き広報したい。

(横山委員長)

各委員にもできるだけ参加をお願いしたい。Step 1について、テーブルリーダーを決めなければならないが、また、それは改めてお願いすることとしたい。希望があれば事務局に言っていただきたい。

(敦賀委員)

Step 1について、団体に依頼するときは、参加者が偏らないよう配慮が必要だと考える。

(事務局)

公募の状況によって、各団体に参加依頼をお願いしたいと考えている。

(横山委員長)

Step 1の各回のテーマについて、決めたいと思う。ここに挙げたテーマから決めたいと思うが、1回目は、わかりやすい導入のテーマとして、理念や前文に関わるものとして。

(板本委員)

未来志向で考えた方が良いと思う。

(横山委員長)

もっと住み良いまちにするためには？でどうか。

(異議無し)

(横山委員長)

それではそのように決めることとする。次に、2から4回目についてはどうか。市役所や議会にどんなことを望むかで、2回目はどうか。

(川田委員)

そうすると、要求、おねだりが出てこないか。

(横山委員長)

だからこそ、テーブルリーダーの役割が重要になる。少しは要求も受け入れるが、別な観点からも発言をもらうことが必要になる。それは、こういうテーマを設定すると表裏一体になる。当然、要望も出てくるし、それは一つの意見でもある。

(川田委員)

市民の要求は、いずれ自分の負担として返ってくる。

(横山委員長)

ワークショップの意見を全て検討委員会で受け入れるわけではないので、そこから抽出しあくまでも参考にしていくことになる。もう一つのテーマは市民が活躍できる場は、市民協働・住民参加とは何？というのでどうか。

(丸藤委員)

市民ができることや、私たちができること、という方が良いと思う。市民が主体的にやらなければならないという話になってくると思う。

(横山委員長)

それでは、私たちができることって何？としたい。もう一つのテーマは、どんな情報が欲しいか？情報公開に望むこと、どちらが良いか。

(若杉委員)

テーマの意図がわからないと思う。

(川田委員)

情報という言葉を使うと分からなくなる。

(市居委員)

情報公開の言葉を使わないと話が進まないと思う。

(横山委員長)

情報公開に望むことでどうか。福祉・教育についてはどうするか。安心安全なまちづくり，高齢者や子どもを考えたまちづくり，でどうか。

(市居委員)

以前，項目をまとめたとき，まちづくりという言葉があった。

(横山委員長)

安心安全なまちづくり・福祉と教育を考えるというようなテーマでどうか。

(丸藤委員)

福祉と教育は，結局は人づくりの部分だと思うので，どういうふう到人づくりをしていくのかというニュアンスが入った方が良くと思う。

(川田委員)

人づくり・まちづくりはどうか。

(丸藤委員)

人づくり・まちづくりをテーマにすれば，2から4回のワークショップを補うことができると思う。

(板本委員)

人づくり・まちづくりは，抽象的なので括弧で教育と福祉を付け加えた方が良くと思う。

(横山委員長)

それでは副題を付けて，人づくり・まちづくり（教育と福祉を考える）にしたい。事務局よろしいか。

(事務局)

了解した。

(板本委員)

確認するが，テーマだけでは意見を聞きたい内容が分からないがどのようにするのか。

(横山委員長)

例えば，住み良いまちにするためにはというときには，その中で，函館の好きなところ嫌いなところを聞く。

(丸藤委員)

順番について，2回目は，市役所や議会にどんなことを望みますか？とし，次に情報公開，そして，私たちができること，最後は，人づくり・まちづくりという順が良いと思う。

(横山委員長)

そのようにしたい。それから，Step 2だが，こちらは各所属団体への出前型のワークショップとなるが，検討委員も忙しいので，Step 1が終わってからの開催で良いと思う。所属団体の都合もあるので5月までの期間で開催をお願いしたい。それから4支所管内でも実施するということが，私も一度行きたいと考えている。ある合併した町で行財政委員会の委員を引き受けているが，開催場所も私の泊まる場所も交代ということで，一つ一つのことが大変なところもあり，4支所管内の開催の時には私も参加したいと思っている。それ以外の団体の開催については，私は参加できないので，

検討委員と庁内プロジェクトのメンバーで対応をお願いしたい。それから高校生や大学生を対象にしたワークショップについても検討委員と庁内プロジェクトのメンバーをお願いしたいと思う。

もう一つフォーラムだが、ワークショップが終わってからの開催になるが、本格的な議論が始まって間もない頃に実施したいということで、3月を予定している。開催は、平日が良いか、日曜が良いか相談したい。函館の事情もあるのでどちらが良いか。フォーラムは基調講演とパネルディスカッションということになると思う。パネルディスカッションには検討委員から二人ぐらいの参加をお願いしたい。場合によっては市長にも出ていただきたいと思っている。

(丸藤委員)

まちづくりセンターの利用状況を見ると、こういった企画は土曜の午後が多い。

(横山委員長)

私の都合で言いますと、3月は土曜の日程が取れない。平日と日曜ではどちらが多いか。

(丸藤委員)

日曜の午後、昼間が多い。

(横山委員長)

3月の日曜の午後でどうか。

(異議無し)

(横山委員長)

日程までは決められないが、3月の日曜の午後を予定したい。

(敦賀委員)

場所はどうか。

(事務局)

会場は、後ほど調整したい。

(横山委員長)

ワークショップの進め方の詳細については、私と事務局、庁内プロジェクトで詰めていきたいと思うが、何かご意見等はあるか。

(丸藤委員)

ワークショップについて相談だが、最後に良く模造紙を囲んで記念写真を撮ったりする。または、実施している風景を写真にして展示したりする。公共のたくさん人が集まる場所で写真展を行ったり、模造紙を貼ったりし、ワークショップに参加していない方にもこういうことを実施したとわかるような、周知の工夫をして欲しい。

(横山委員長)

稚内市でもそのようなことを行った。公共施設に模造紙を貼りだしたりした。まちづくりセンターが良いのか、市役所が良いのかといったことがあるが。

(丸藤委員)

まちづくりセンターに展示することもできる。

(事務局)

そういったご意見があればどんどんいただきたい。

(若杉委員)

市役所のホームページにはアップするのか。

(事務局)

ホームページにも載せていきたい。

(横山委員長)

市の広報紙にも連載や特集を組むことも考えられる。その他よろしいか。次回12月11日は年内最後の会議だが、ワークショップについて、良くわからないと思うので、丸藤委員にお願いし模擬ワークショップを次回実施したいと思う。それと次回には、本日の案を再度整理したものを出したいと思う。次回の模擬ワークショップの運営について、丸藤委員から説明があれば願います。

(丸藤委員)

私案だが、条例の前文に入るキーワードが聞けるよう、わかりやすく、楽しみながら、各委員の想いが引き出せるように進めたいと思う。

(横山委員長)

ひとつよろしく願う。事務局から何かあるか。何もなければこれで終了する。

### 3 閉 会